

内容の濃い修養会でした！！

遺愛では毎年 11 月にクリスチャンの方で各界の第一線で活躍されている方をお招きし修養会を行います。医療・福祉、環境、平和を 3 年サイクルで学び、今年は 4 日・5 日に医療をテーマに、講師に日本のホスピスの草分け柏木哲夫先生（大阪大学名誉教授・金城学院長）をお招きしました。ふだん「生と死」について真正面から学び話し合う機会は少ないのですが、今回はしっかりと取り組みました。柏木先生はホスピスとは何か？その歴史、魅力について話された後、最後の講演で、治癒が望めなくなった時にどう生きるかについてお話しされました。その中で心に残っている言葉は、「平安」という言葉です。「安全」は身体、「安心」は心、「平安」は魂に関わる言葉という説明がありました。人間の最後は社会的な衣が全部はげ落ちて、魂がむきだしになる。死に向き合わざるをえない時、それまで築いてきた地位や財産は無力で、そこで問われるのはその人の魂に上からの平安があるかどうかであり、それは信仰によると語っていました。とても大切な学びの時となりました。

1 日目の放課後の「講師を囲む会」でも 90 人以上の生徒の皆さんが集まり、積極的に質問をしていました。「11 月 1 日に自ら命を絶ったアメリカのブリトニーさんについてどう思いますか？」という質問もありました。柏木先生は慎重に言葉を選びながら、「とても残念です。十分な情報がないので、周りがどのような関わり方をしていたのかわかりませんが、もう少しうまく彼女に関われなかったのかなという思いです。彼女が十分なケアを受けていたのかどうか？ 2500 人のホスピスの看取りの経験から、痛みを除去し、家族、医療スタッフとの濃い交わりがあれば、もっと違う最後を選択して



いたかもしれません。」とおっしゃっていました。

2014 年
11 月 7 日（金）

講堂での「講師を囲む会」では熱心な質疑が行われました。